

第2回 世界防災フォーラム 一般公開セッション『いのちを守る教育を支える教員の防災キャパシティ・ディベロップメント』を開催しました（2019/11/10）

テーマ：学校防災、防災教育、教員研修
場所：仙台市国際センター

2019年11月10日、宮城教育大学の主催、東北大学災害科学国際研究所と一般社団法人国立大学協会の共催、日本安全教育学会ほかの後援により、「いのちを守る教育を支える教員の防災キャパシティ・ディベロップメント～宮城教育大学防災教育研修機構＜311いのちを守る教育研修機構＞の発足を記念して」を開催しました。当セッションには、国内外の防災関係者、教育関係者など135名が参加しました。

宮城教育大学の村松 隆学長による開会の辞の後、トルコ共和国のトゥバ・ギョクメノール・カラカヤ国民教育省大臣補佐官（防災教育研修担当）、および文部科学省総合教育政策局安全教育推進室の森本晋也 安全教育調査官による特別講演が行われました。トゥバ氏からは、トルコ共和国における教員向け防災研修を推進するためのeラーニングシステムについて紹介がなされ、森本氏からは、自身が岩手県釜石市において取り組んだ津波防災教育に関する事例や学校安全に関する教職員の資質・能力の向上に向けた文部科学省の取り組みなどが紹介されました。

その後、当研究所の佐藤 健教授（情報管理・社会連携部門）が宮城教育大学の客員教授としての立場からも討論モデレータとなり、セッションチェアである宮城教育大学の小田隆史 准教授とともに、わが国における今後の防災教育や教員研修の充実に向けた議論が、一般参加者も交えて展開されました。後援機関の一つである日本安全教育学会の渡邊正樹 理事長（東京学芸大学・教授）より、311いのちを守る教育研修機構に対する今後の期待が述べられ、一般参加者としての学校現場の教員からは、自らの東日本大震災の経験に基づいて改めて学校での防災教育の重要性についての発言がありました。

セッションのまとめとして、当研究所 寄附研究部門の学術研究員でもある、宮城教育大学の武田真一 特任教授から総括がなされ、宮城教育大学防災教育研修機構長の岡 正明副学長による閉会の辞の中で、新設された宮城教育大学防災教育研修機構が果たすべき役割と使命が述べられました。



会場風景（写真は宮城教育大学より提供）